

倫理

第3問 問4 「20」

ヘーゲルの思想について、資料と合わせて考える問題で、各学力層で差がついた

問4 下線部③に関して、次の資料は、ヘーゲルが主体的な意志と善について述べた文章である。ヘーゲルの思想と資料の内容の説明として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 20

資料 「法の哲学」より

著作権の都合により非掲載としています。

- ① 歴史とは自由が実現される過程だと考えたヘーゲルは、資料では、人間は抽象的な存在ではなく具体的な存在なのであり、抽象的な文化や芸術などよりも物質的な生産活動こそが自由を拡大し、善を成就すると述べている。
- ② 歴史の運動の法則として弁証法をと考えたヘーゲルは、資料では、すべてのものは善を目的としており、人間の意志のうちにある善は、止揚によってより高次の内的な現存在として実現すると述べている。
- ③ 法と道徳を総合して人倫が成立すると考えたヘーゲルは、資料では、人間は自由な意志を持つ存在であり、普遍的な目的である善は内面で完結するものではなく、現実の世界において実現すべきものであると述べている。
- ④ 人倫の三段階のうち、市民社会が最高の共同体であると考えたヘーゲルは、資料では、普遍的な理想としての善は、外的な現存在である市民社会において実現されるべきものであると述べている。

第3問 問4 「20」

正解率	56.2%
SS65～70	87.3%
SS60～65	82.8%
SS55～60	71.2%
SS50～55	60.0%
SS45～50	49.4%

2023年度第3回ベネッセ・駿台
大学入学共通テスト模試
「倫理」

受験者数:	8,942人
平均点:	52.1点
標準偏差:	15.2

倫理

第3問 問4 「20」

ヘーゲルの思想について、資料と合わせて考える問題で、各学力層で差がついた



結果分析

第3問の問4は、ヘーゲルの『法の哲学』の資料を用いて、ヘーゲルの思想と資料中のヘーゲルの主張を同時に考察する力を問う問題で、各学力層で差がつかしました。

資料を読み、その内容とヘーゲルの思想を合わせて考察することが求められており、資料の読解とともにヘーゲルの思想について、深く理解できているかどうかで差がついたと考えられます。

指導のご提案

教科書を一通り終了し、問題演習を通して知識の定着・確認や、新しい設問形式への対策を進められつつある時期だと思えます。個々の思想家の断片的な知識は身についても、その思想が生まれた背景や他の思想に及ぼす影響、類似する思想などについての理解は十分ではないことも考えられます。これから共通テストまでの期間では、実践的な問題演習を重ねるとともに、思想が生まれた背景や他の思想への影響、さらに相互の関連性について整理し、思想の理解を深めるようご指導されることをおすすめします。

また、共通テストでは、本問のような資料をもとにした出題や、読解力を要する出題が多く予想されます。教科書や資料集で思想と結びつけて原典資料を改めて確認するとともに、短時間で長文を読み、その要旨を的確にとらえる演習を繰り返すことも大切です。